たけうまファンド

設定日	：2011年11月	償還日	：死ぬまで	決算日	：原則、毎月末
収益分配	：ありません	基準価額	：算出対象外	純資産総額	：非公開

※レポートのグラフ、数値等は過去のものであり将来の運用成果等を約束するものではありません。
※レポートでは公開できない数値等が多数存在するため、目盛り等一部の表示を省略させていただいております。

運用実績

※運用開始時の資産を100としたグラフとなっています。
※グラフの歯抜け期間は当ファンド運用担当者のメンタルが死んでいた期間につき運用実績の記録ありません。

＜資産構成比率＞

日本株式	58.0%
海外株式	23.6%
現金（円・$）	18.4%

※比率は対純資産総額比です。

＜純資産総額騰落の要因分析＞

日本株式	6.1%
海外株式	7.4%
現金（円・$）	21.8%

※上記の要因分析は当月中の売買を考慮せず（できない）、前月末と当月末の時価総額の差を算出してます。
※上記の要因分析は、実際の純資産総額の変動を正確に説明するものではありません。各市場と当ファンドの運用状況の傾向を知るための参考地としてご覧ください。

＜分配金実績＞

設定来
0円

※永遠のゼロ。成長ないので分配なし。

＜純資産総額の騰落率＞

1ヶ月	3ヶ月	6ヵ月	1年	年初来	設定来
8.9%	8.9%	15.3%	21.9%	15.3%	1663.16%

※証券口座現在の資産残高基準。投資信託、iDeCo、仮想通貨、FX（外貨証拠金取引）は含まず。

株式投資は、値動きのある資産（外国株式は為替変動リスクもあります。）に対し投資をするため、資産残高は変動します。したがって、元本を割り込むことがあります。つらい。
■当資料は、当ファンド運用担当者が運用状況を報告する手段としてブログ等の代替として作成した資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、今後変わる可能性があります。

たけうまファンド　日本株式／海外株式

＜資産構成比率＞

資産	比率
株式	81.6%
現金	18.4%

＜国・地域別組入比率＞

国・地域名	比率
日本	58.0%
アメリカ	23.6%

＜業種別組入比率＞

業種	比率
一般消費財・サービス	35.21%
資本財・サービス	23.19%
情報技術	9.39%
金融	5.61%

＜組入上位10銘柄＞

	銘柄名	通貨	国・地域名	業種	比率
1	ウルトラファブリックスHD 4235	日本円	日本	一般消費財・サービス	15.74%
2	オカダアイヨン 6294	日本円	日本	資本財・サービス	15.93%
3	ディップ 2379	日本円	日本	一般消費財・サービス	10.30%
4	ServiceNow, Inc NOW	米ドル	アメリカ	情報技術	9.37%
5	Tapestry, Inc. TPR	米ドル	アメリカ	一般消費財・サービス	8.61%
6	MSCI Inc. MSCI	米ドル	アメリカ	金融	5.61%
7	シンメンテHD 6086	日本円	日本	資本財・サービス	5.01%

＜規模別構成比率＞

時価総額	比率
1兆円以上	28.89%
5000億～1兆円未満	1.58%
1000億～5000億円未満	17.94%
1,000億円未満	51.60%

株式投資は、値動きのある資産（外国株式は為替変動リスクもあります。）に対し投資をするため、資産残高は変動します。したがって、元本を割り込むことがあります。つらい。

■当資料は、当ファンド運用担当者が運用状況を報告する手段としてブログ等の代替として作成した資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来にわたってなんら保証するものではありません。

運　用　実　績

今月の当ファンドは1桁台後半の市場平均を上回る実績を残すことができました。今年の累計ではまだまだ指数には劣後しているため、今年後半も気を抜かずにやっていく所存です。

要因としては大きくポジションを取っているオカダアイヨンが引き続き堅調な株価推移だったこと、調整が長引いていたUFHDが出直ってきたこと、米国株が総じて堅調だったことがあげられそうです。当ファンドとしては大きめの現金比率を維持しながらのパフォーマンスなのでより価値があったものと考えています。

売買は大きく行いました。ポートフォリオに組み入れ後ずっと振るわないディップを大きく買い増しました。また、同様に振るわなかったシルバーライフを優待分残して売却しました。シンメンテは3分の1削減しました。シルバーライフは売却後に大きく上昇してしまい、これは完全に失敗でしたね…。また、株価の低迷が止まらないベネフィット・ワンは優待ポートフォリオに移管したため主力銘柄から除外しています。

これらの売買の結果、現在の主力ポートフォリオは7銘柄まで減少し順位も大きく変動しています。他には信用でNTTを保有しているのですが、これは記載していません。とてもベタな選択ですが象徴銘柄になってくれないかな…？と期待しています。

このままでもいい気もしますが、年後半にかけてまだこの先も上昇相場が続くのであればもう少し現金を減らしておきたいところです。現在検討している候補としてはヒューリック、荏原製作所、野村マイクロあたりでしょうか。7月中頃から後半にかけて第一四半期決算が出てくるので、これを見ながら考えていく予定です。

株式投資は、値動きのある資産（外国株式は為替変動リスクもあります。）に対し投資をするため、資産残高は変動します。したがって、元本を割り込むことがあります。つらい。

■当資料は、当ファンド運用担当者が運用状況を報告する手段としてブログ等の代替として作成した資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来にわたってなんら保証するものではありません。